

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的
センターは、本学の理念に沿って、本学の共通基礎教育の企画・実施及び教育内容・方法などの系統的研究を行い、人間性・主体性・社会性を備えた総合的な知の形成、総合的な言語技術の習得と外国語の運用能力の向上、情報システムを用いた問題解決能力の獲得などを通して、自ら考え判断して生きていくための「基盤」となる能力を備えた人材を養成することを目的とする。

⑦ 具体的な構成員
<基盤教育センターの構成員>
基盤教育センター(センター長) 教授 廣渡栄寿
基盤教育センター(副センター長/教養教育部門長) 教授 神原ゆうこ
基盤教育センター(副センター長/ひびきの分室長) 教授 植田正暢 等

なお、具体的なプログラムの改善に際しては、本教育プログラムの科目担当教員を中心に構成される「データサイエンス教育WG」にて定期的に協議している。
<データサイエンス教育WGの構成員>
基盤教育センター(センター長) 教授 廣渡栄寿
基盤教育センター/情報総合センター(センター長) 教授 浅羽修丈
基盤教育センター 教授 池之上正人 等

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	7%	令和6年度予定	14%	令和7年度予定	21%
令和8年度予定	28%	令和9年度予定	35%	収容定員(名)	5,596

具体的な計画

令和5年度と同じ履修者数であることを想定し、以下の計画とする。

令和5年度 履修者数394名, 履修率 $394/5,596 \div 7\%$
 令和6年度 履修者数394名(履修者数累積788名), 履修率 $718/5,596 \div 14\%$
 令和7年度 履修者数394名(履修者数累積1,182名), 履修率 $1,182/5,596 \div 21\%$
 令和8年度 履修者数394名(履修者数累積1,576名), 履修率 $1,576/5,596 \div 28\%$
 令和8年度 履修者数394名(履修者数累積1,970名), 履修率 $1,970/5,596 \div 35\%$
 (※履修率は「履修者数累積/収容定員」として計算)

本プログラムの開設年度は令和5年度である(令和4年度以降入学生, 2年次以降が対象)。そのため令和6年度以降は, 履修者数累積および履修率は増加すると見込まれる。
 なお, 本教育プログラムの詳細についてはWebサイトに掲載して学生へ周知するとともに, 関連科目等でのアナウンスを行う予定である。これにより履修者数・履修率の向上に向けた取り組みを行う。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きるAI技術」をメディア授業(ライブ配信+ビデオオンデマンド)で実施することにより, 希望する学生全員が受講可能となるような体制を整えている。
 令和6年度以降は, 「社会を動かすデータ活用」を1学期開講, 「社会で生きるAI技術」を2学期開講とし, 同一学期での開講を避けることにより, さらに履修しやすい体制を整える予定である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きるAI技術」について, 科目案内資料(チラシ)の配布や関連科目でのアナウンス等により, 学生へ周知する取り組みを行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きるAI技術」をメディア授業(ライブ配信+ビデオオンデマンド)で実施し、できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポートを行っている。
なお、ライブ配信授業も含め、すべての授業回についてオンデマンド配信用動画を準備することにより、後日でも講義動画の閲覧が可能な環境を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

LMS, メール等のオンラインでの質問受付・サポートに加えて、教室等で対面での質問受付・サポートの体制を整えている。
授業時間外もオフィスアワーを設定し、対面での質問受付・サポート体制を整えている。オンラインでの質問については、授業時間外も必要に応じて対応する体制を整えている。